

<小学校 学級経営>

一人一人を生かす学級経営

— 学級経営年間指導計画の作成を通して—

糸満市立西崎小学校教諭 徳村政宜

目次

I	テーマ設定の理由	41
II	研究仮説	41
III	研究の全体構想図	42
IV	研究内容	43
1	学級経営の意義	43
2	学級経営の内容	43
3	学級担任としての姿勢	43
4	一人一人を生かすための児童の理解	43
5	学級経営年間指導計画表の作成の意義	44
6	学級経営年間指導計画表	45
7	児童理解のための個人カルテ	46
8	学級経営の評価と反省	47
9	児童がとらえる学級像・先生像	48
V	授業実践	48
1	活動名	48
2	活動のねらい	48
3	本時までの計画	48
4	本時の指導	48
5	授業の考察	49
6	「自分PR集会」のプログラム	50
7	学級の歌《歩こう4年4組》	50
8	集会の活動の様子	50
9	児童の声「友達の良いところをみつけたよ」	50
VI	研究のまとめと今後の課題	50
1	まとめ	50
2	今後の課題	50

## ＜小学校 学級経営＞

### 一人一人を生かす学級経営

— 学級経営年間指導計画の作成を通して —

糸満市立西崎小学校教諭 徳村政宜

#### I テーマ設定の理由

これからの小学校教育においては、児童一人一人の良さや可能性を發揮させつつ、主体的、創造的に生きることができる資質や能力の育成を目指すことが求められている。

そのためには、学級という集団の中で、児童一人一人を生かすことが大切となってくる。

「一人一人を生かす」ということは、まず、教師が児童をさまざまな可能性をもった存在と認め、誰もが成長したいという願いをもっているという認識の上に立つことである。そして、あらゆる教育活動の中で、教師が、児童のもっている良さやもち味を可能なかぎり見つけだし、そして認めてやることである。同時に、その良さやもち味を学級集団の中で調和させ、生かすことである。ここで、一人一人の児童にしっかりと目を向け、一人一人を生かしていく学級経営が必要となってくる。

学級経営の基盤となるものが児童理解であり、学級担任が児童を正しく理解し、その児童の特性に応じた指導が必要である。そのためには、児童理解のための個人カルテを工夫し児童の能力や適性等を的確に記録・把握することにより、教師と児童の信頼関係を一層深めることが要求される。さらに、児童の理解に努めながら、それぞれの思いや願いを十分に反映させていく学級経営が必要となってくる。

私のこれまでの学級経営を振り返ってみた場合、自分なりに努力をしてきたつもりであるが、いつのまにか活動がパターン化された活気の見られない学級経営になり、必ずしも満足のものではなかった。そこで、「今度こそは、児童一人一人が生き生きと活動し、厳しさの中にも楽しさがある明るい素晴らしい学級にしたい。」と考え、以下の事項に配慮した学級経営の研究をすすめた。

それは、

- (1) 計画的な学級経営案のもとに実践をすすめる。
- (2) 教師と児童のふれ合う機会を多く持ち、児童一人一人の良さやもち味を見つけだし、認めてあげるようにする。
- (3) 個々の児童の特性に合った活動を取り入れる。
- (4) 正しい児童理解に努める。
- (5) 実践した後の学級経営の評価・反省ができるようにする。

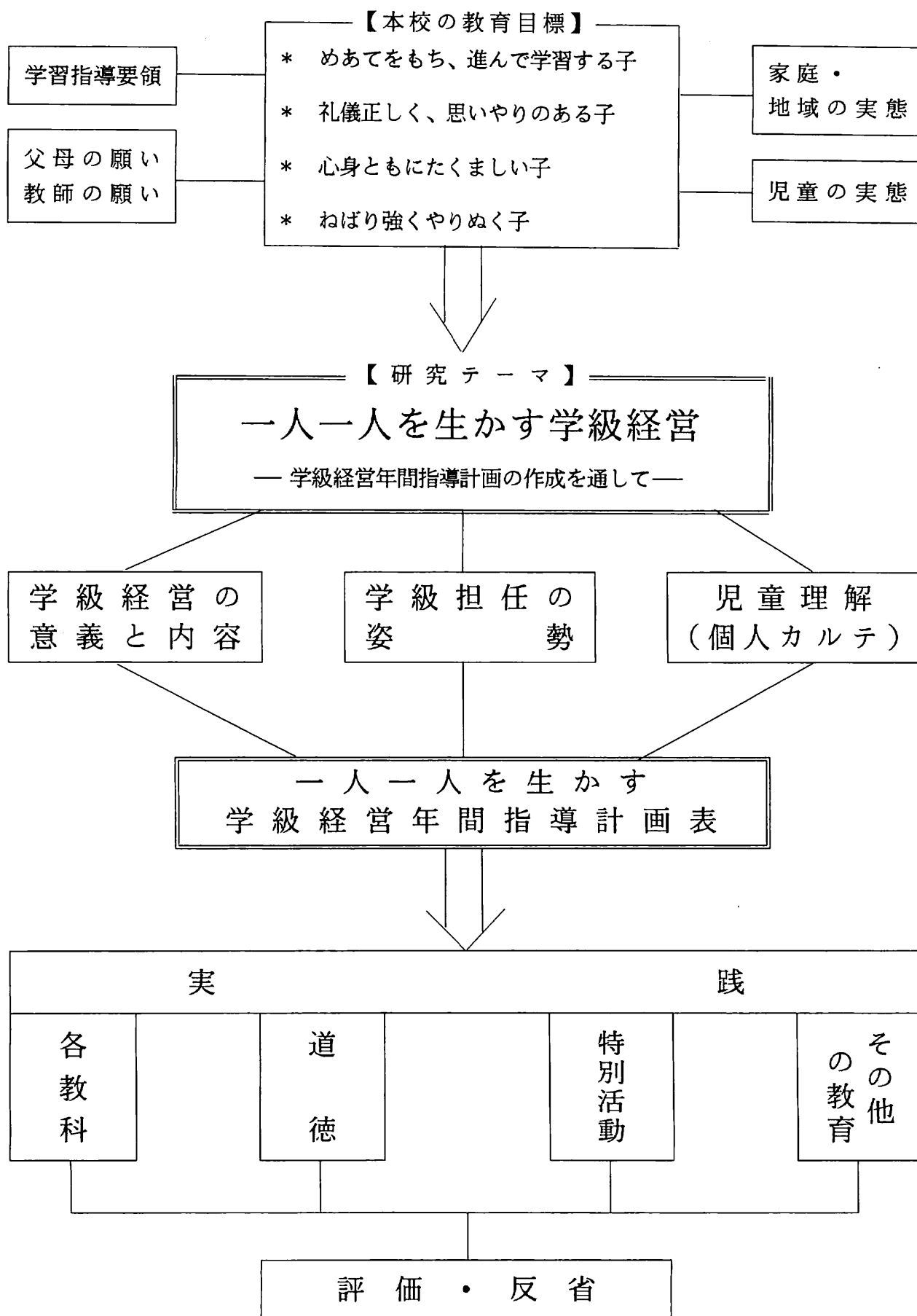
特に、児童とのふれ合いの場を多く持ち、児童を大事にし、児童個々の良さやもち味を見つけだし、それを認めるように努めていきたい。そのために、児童の伸びようとする気持ちを共感的に受け止めることができるようにしていきたい。

そこで、児童理解に基づいた学級経営年間指導計画を作成し、無限の可能性をひめた児童一人一人を大事にし、児童個々の良さやもち味を見つけだし、その可能性を引き出し育てていくための実践、評価・反省を重ねた学級経営の工夫・改善が大切であると考え、本テーマを設定した。

#### II 研究仮説

教師と児童の信頼関係をふまえ、一人一人の良さやもち味が生かされるために、児童自らつくりあげていく活動、教師のアイデア等を取り入れた学級経営年間指導計画を作成し、実践、評価・反省していくことによって、「一人一人を生かす学級経営」ができるであろう。

### Ⅲ 研究の全体構想図



## IV 研究内容

### 1 学級経営の意義

教師は、児童一人一人に指導の効果が上がるように願って、日々の教育実践を行っている。そのためには、学習指導の基盤である学級がよい人間関係に支えられていることが大切であり、そのために学級経営が重要な役割を担ってくる。『萩原繁夫・三浦健治共編小学校学級担任活動双書1ひとりひとりを生かす学級経営』では、「学級経営は、学級を単位として展開される子どもの学校生活を充実させ、教育指導の効果をあげるために担任が行うすべての教育活動、教育的配慮、条件整備等の営みをいう」と指摘している。学級経営の内容は、『小学校学級担任活動双書1ひとりひとりを生かす学級経営』の著書を参考にして自分なりに以下のようにまとめた。

### 2 学級経営の内容

- (1) 児童一人一人を正しく理解する
- (2) 民主的な学級集団に育てる
- (3) 望ましい人間関係の育成につとめる
- (4) 学習指導の工夫と改善を図る
- (5) 望ましい生活習慣、規則を身につけさせる
- (6) 児童の健康・安全に配慮し、その条件を整える
- (7) 教室の環境の整備と設営にあたる
- (8) 学級事務の能率的な処理がなされる
- (9) 家庭や地域社会との連携がなされる
- (10) 情報教育の収集・整理につとめる

### 3 学級担任としての姿勢

学級経営は、担任教師の主体性と創造性によって望ましい方向に発展的に活動を進めることができる。児童の人間形成に働きかける学級担任の人間性は、大きな影響力をもつということになる。主体性と創造性のある教師の下で学んだ児童は、主体的で創造性豊かな児童に育つといわれる。学級経営においては、その担任の個性を生かした魅力のある学級づくりが必要であり、それが児童自身の「やる気」にもつながり、活気に満ちた学級ができるものと思う。すなわち、学級経営で肝心なことは、担任教師の取り組みに対する熱意と創意工夫、つまり、「やる気とアイデア」の勝負であると考えている。

学級担任としての姿勢として『東江小学校山城康子教諭』の研究資料を参考にして自分なりにまとめた。

- (1) 健康でユーモアがあり、ファイトのある教師
- (2) 一人一人の児童の理解に努め、その児童の良さやもち味を生かすことのできる教師
- (3) 児童一人一人に愛情を注ぎ、どの児童にも話しかけ遊んでやれる教師
- (4) いつも新しいアイデアをうみだし、やる気とねばりのある教師
- (5) 児童をひとりの人間として尊重し、どの児童にも公平な態度で接することができる教師
- (6) どの教科も教材研究をし、準備をしてから授業に望む教師
- (7) 悪いときに悪いと真剣に叱ることのできる教師
- (8) 児童と共に悩んで育ち、一步一步進みつつある教師
- (9) 家庭との連携を図り、父母と共に育つ教師
- (10) 常に新しい情報をキャッチし、この時代に対応できる教師

### 4 一人一人を生かすための児童の理解

『尾崎勝・西君子編著発達をとらえた児童理解とその指導3・4年〔改訂版〕』では、「一人一人の子どもが学校生活に適応し、学習やさまざまな活動を通して、それぞれに特性を発揮しながら、成長・

発達していくことを願っている。そのような子どもの成長過程にかかわり、援助していくのが、私たち教師の役割である。そして、その役割の出発点は、一人一人の子どもの、より正しい、また、より深い理解を旨とするところにあるといえる」と指摘している。

児童理解はすべての教育活動の基礎であり、教育の方法または教育の目標でもあるといわれている。教師による児童理解は、児童自身の自己実現に向け、自己指導力の育成に役立つものでなければならない。そのためには、児童とのふれ合う機会をできるだけ多くもち、担任教師がどれだけ多くかかわったかが大きなポイントになる。

尾崎勝・西君子は、児童理解の方法として次のように掲げている。

- (1) 直接的なふれ合いを通して子どもの内面にせまる  
○一人一人の子どもは、独自のものの見方や感じ方をしながら生きている。しかもそれは、刻刻に変化していくものである。それを子どもの立場に立って、ありのままに理解し、共感しようと努力する方法である。これは児童理解の基本であるといえる。したがって、日常あらゆる場と機会において、子どもの言動や表情から、その内面にせまる努力をしていくことが大切である。
- (2) 資料を収集し活用して、客観的・多面的に理解する  
○子どもの知能、学業、性格、友人関係、身体の健康、家族関係等、さまざまな側面について検査・調査を行い、それを分析し、総合して、子どもの実態を明らかにしようとする方法がある

## 5 学級経営年間指導計画表の作成の意義

学級経営には、学級の目標や学級担任の願いや指導の重点が、年間の中で、いつ、どこで、どのような活動を通して運営されていくのか、具体的な学級経営年間指導計画表が必要である。「児童一人一人を生かす」視点に立ち、その一人一人のよりよき成長を旨とした意図的・計画的な運営をするために本研究では、次のことを配慮して一年間の学級経営の流れが分かる学級経営年間指導計画表を作成した。

- (1) 一人一人を生かす重点  
○学級の目標や学級担任の願いを受け、一人一人の「良さ・もち味」を生かすための教師の働きかけを示した。
- (2) 生活目標  
○児童の良さを積極的に生かすために、肯定的な目標を取り入れた。
- (3) 学校行事  
○年4回の学級PTAを開催し、1学期末には個人面談を取り入れた。特に児童一人一人の良い点を伸ばすための面談になるように心がけたい。
- (4) 学級活動  
○児童一人一人の良さやもち味が生かされるための集会活動を学期ごとに計画した。
- (5) 児童理解
  - ①指導要録からの児童理解のために、今までの記録のすべてに目を通すようにする。
  - ②教師が児童理解のための個人カルテを作成し、児童自らと家庭での記入をお願いする。
  - ③ソシオメトリック・テストを実施し、分析する。
  - ④POEM検査を実施し、個人面談の資料に生かす。
  - ⑤父母の願い・教育観を理解するために父母へのアンケートを実施する。
- (6) 学級経営の実践  
次の事項に配慮しながら学級経営の実践に取り組んでいきたい。
  - ①かかわり合い、支え合い、認め合いのある温かい人間関係
  - ②遊びも仕事も分担して協力し合う楽しい学校生活
  - ③学習のことや生活のことに意欲的に取り組む教育活動
  - ④学習指導を支える教材研究、諸事務の適切・迅速な処理特に学級通信の発行においては、児童一人一人の良さを取りあげるように工夫していきたい。

8 学級経営の評価と反省 (A:十分達成、B:まあまあ達成、C:努力を要する)

項目	観 点	評 価	反 省
学級目標	*学校・学年の目標に即しているか。	A B C	
	*担任教師の考えは生かされているか。	A B C	
	*学級の独自性を生かしているか。	A B C	
	*学年の児童の発達段階を考えているか。	A B C	
	*児童の実態や保護者の願いが考えられているか。	A B C	
	*具体的で実践しやすいか。	A B C	
学級経営案	*目標を具体化できるように配慮されているか。	A B C	
	*経営の方針や重点が具体的であるか。	A B C	
	*担任の考えが生かされ、創意工夫があるか。	A B C	
	*学級の生活にゆとりと充実を考えているか。	A B C	
	*評価の時期や方法が具体的になっているか。	A B C	
児童理解	*児童理解するために資料の収集に努めたか。	A B C	
	*児童一人一人を多面的・多角的に見ているか。	A B C	
	*児童一人一人とのふれ合いを大切にしているか。	A B C	
	*個々の児童についての記録がなされているか。	A B C	
学級集団	*学級は開放的で、楽しい雰囲気をもっているか。	A B C	
	*学級全体が協力的で、自主的な活動がなされているか。	A B C	
	*学級内の組織(係・当番など)は生き生きと活動しているか。	A B C	
	*担任は、学級集団の実態をよく把握しているか。	A B C	
	*学級内の友人関係は安定しているか。	A B C	
	*教師と児童との人間関係はよいか。	A B C	
学習指導	*教材研究や教具の準備が、事前になされているか。	A B C	
	*体験的活動を生かして、学習意欲を高める指導に努めたか。	A B C	
	*個性を生かす指導方法の改善に努めたか。	A B C	
	*学習の仕方を身につける指導に努めたか。	A B C	
生活指導	*基本的な生活習慣が身につけているか。	A B C	
	*月の生活目標を明確にして実践しているか。	A B C	
	*望ましい人間関係の育成に努めているか。	A B C	
	*場に応じた判断力を育成するよう指導が行われているか。	A B C	
教室環境	*児童の健康・安全への配慮がなされているか。	A B C	
	*安定感があり、意欲を起こさせるような配慮があるか。	A B C	
	*児童の自主的活動や創意を生かした環境であるか。	A B C	
	*固定的な物と動的な物の調和がとれた環境であるか。	A B C	
学級事務	*学級事務は計画的に処理されているか。	A B C	
	*各種調査・事務・諸記録が正確になされているか。	A B C	
	*成績物や作品の保管・処理は適正になされているか。	A B C	
	*金銭処理は、迅速且つ適正になされているか。	A B C	
家庭との連携	*学級目標が父母に知らされ、協力を得られているか。	A B C	
	*家庭との連携のため「学級通信」を発行しているか。	A B C	
	*学級通信の内容が工夫・改善されているか。	A B C	
	*学級懇談の内容は、事前に計画的に準備されているか。	A B C	
	*授業参観は、児童の成長が見えるように工夫しているか。	A B C	
	*個々の指導について共通理解と協力が得られているか。	A B C	

9 児童のとらえる学級像・先生像

○検証授業の事前調査として、「本学級の児童にとらえている学級像・先生像」について、思いつくことをイメージさせた結果、次の図1・2のようになった。また、「あなたは、どんな学級にしたいですか」の問いに、①いじめやけんかのない楽しい学級 ②みんなが仲よく助け合う学級 ③元気で明るい学級 ④みんなが発表のできる学級の順として結果がでた。そのような学級の実態をふまえて、児童一人一人のかくれた良さやもち味を知る「自分PR集会」に取り組んだ。

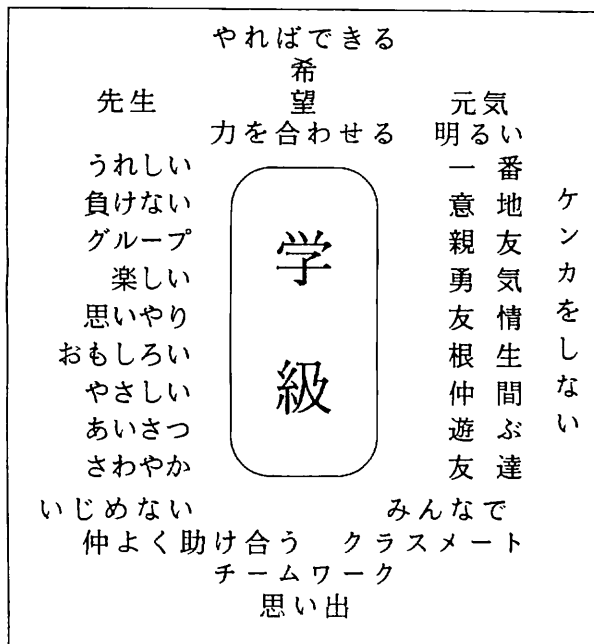


図1：児童のとらえている学級像

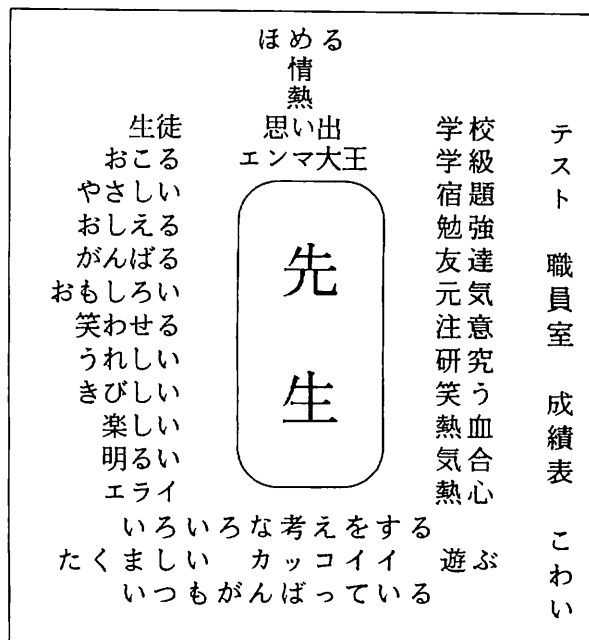


図2：児童のとらえている先生像

V 授業実践

1 活動名 自分PR集会

2 活動のねらい

- (1) 一人一人の良さやもち味を知る集会ができるようにする。
- (2) みんなで仕事を分担し合って、楽しい集会ができるようにする。

3 本時までの計画

月	日	活動の場	内容
5月30日	(木)	放課後	計画委員会(係、役員を決める)
5月31日	(金)	学級活動	話し合い活動「自分PR集会をしよう」
6月4日	(火)	図工	出し物に必要な小道具の作成
6月6日	(木)	放課後	プログラムをつくる
6月10日	(月)	放課後	集会の準備をする
6月11日	(火)	集会活動	検証授業「自分PR集会」

4 本時の指導

- (1) ねらい ○一人一人の良さやもち味がわかり、お互いに協力し合い、助け合うよい人間関係が生まれるような楽しい集会ができるようにする。

(2) 展 開

時間	活動の内容	準備・係	指導上の留意点
初 め  5 分	1. 始めのあいさつ  2. 頭の体操  3. 集会のめあて発表	司会(圭則・彩) あいさつ(卓矢) 色画用紙  進行係(美香子)	・元気よくあいさつをさせる。  ・教師が児童等に指と色画用紙を使っての軽いゲームを行う。  ・めあてを意識し、楽しい集会にしようという意欲を持たせる。
活 動 の 展 開  35 分	4. 各グループの出し物 ・①グループの出し物  ・②グループの出し物  ・③グループの出し物  ・④グループの出し物	リコーダー  けん玉・竹刀  ボール・一輪車  こま・短縄	・自分のよさが発揮できるように自信をもって行動させる。 ・自分の得意な技をのびのびと発表させる。 ・流れがスムーズにいくように司会の進め方をきびきびとさせる。 ・お互いの発表のよいところを認め合うようにさせる。
ま と め  5 分	5. 学級の歌 「歩こう4年4組」  6. 先生の話  7. 終わりのあいさつ	テープ・歌詞表    あいさつ(友人)	・自分たちで作った歌だという誇りをもっていきいきと歌わせる。 ・一人一人のよさがあることに気づかせそれを認め合うことの大切さを知らせるとともに、みんなの努力を賞賛する ・元気いっぱいあいさつをさせる。

(3) 評 価

- 一人一人の良さやもち味を知ることができたか。
- 友達と協力し合い、助け合い最後まで頑張ることができたか。

5 授業の考察

- (1) 自分をPRすることによって、児童一人一人の持っている特徴が発揮でき、さらに一人一人の良さやもち味を知ることができた。
- (2) 「一人一人を生かす」視点で、有効な集会であった。
- (3) グループの編成は、教師が意図的に排斥し合っている児童同士を同じグループにした。4つの組の排斥し合っているペアのうち、2組（翼くんと淳也くん、沙耶香さんと美咲さん）がペアで出し物をがんばったのはよかった。
- (4) 学級の歌は、児童の作った詞をもとにして仕上げたのはよかった。
- (5) 教師の指導として、全体的に細かい指導がなされ、児童一人一人にスポットをあてて、気配りしていた。
- (6) 担任の支援する言葉かけがあり、児童一人一人がやる気をおこし、よくがんばっていた。
- (7) 教室の設営にも目を配り、「どいしたの、ありがとう、ごめんね、よかったね」という合言葉のポスターがあり、とてもよかった。
- (8) 教師は、学級全員を対象にどんな小さなことでもほめてあげることが大切である。教師はときにはオーバーにほめ、演出者になることも必要である。




6 「自分PR集会」のプログラム

プログラム  
「自分PR集会」

一、はじめのあいさつ  
二、頭の体操  
三、集会のめあて発表  
四、各グループの出し物  
五、学級の歌  
六、先生の話  
七、おわりのあいさつ

全体司会 伊藤 圭則  
副司会 内田 彩  
進行係 新垣 卓矢  
徳村 先生  
照屋美香子  
進行係 グループの司会  
田中 淳也  
大城香奈美  
前門 浩次  
山城 知里  
仲吉 剛一  
賀数 堅太  
徳村 先生  
上原 友人



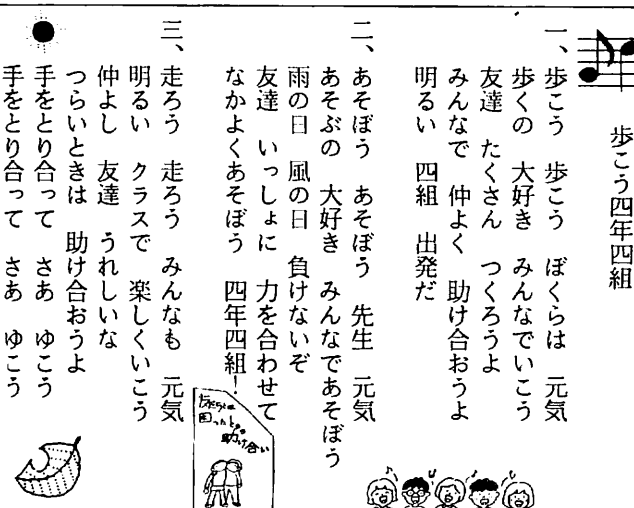
7 学級の歌《歩こう4年4組》

歩こう四年四組

一、歩こう 歩こう ぼくらは 元気  
歩くの 大好き みんなでいこう  
友達 たくさん つくろうよ  
みんな で 仲よく 助け合おうよ  
明るい 四組 出発だ

二、あそぼう あそぼう 先生 元気  
あそぶの 大好き みんなであそぼう  
雨の日 風の日 負けないぞ  
友達 いっしょに 力を合わせて  
なかよくあそぼう 四年四組！

三、走ろう 走ろう みんなも 元気  
明るい クラスで 楽しくいこう  
仲よし 友達 うれしいな  
つらいときは 助け合おうよ  
手をとり合って さあ ゆこう  
手をとり合って さあ ゆこう



8 集会の活動の様子



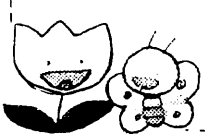
一輪車の演技をしてくれたお友達

9 児童の声「友達の良いところを見つけたよ」

ゆうみ くん、さんの  
よいところを見つけたよ！

ゆうみさん、一人車に乗ってましたよ。私も一人車のれるけど、ゆうみさんみたいに、たたくところへ、すむのがあまりできないので、いっしょにおしえてね。

（ ゆい ） より



VI 研究のまとめと今後の課題

1 まとめ

- (1) ソシオメトリック・テストやPOEM検査、自作アンケート等を実施したことで、学級の間関係や児童の個性を把握することができた。
- (2) 計画的な学級経営をするための学級経営年間指導計画表を作成することができた。
- (3) 学級経営についての全般的な理論を知ることができた。
- (4) 児童一人一人の良さやもち味を生かすための自分PR集会の計画・実践は、「一人一人を生かす学級経営」にとって効果的な集会活動であることがわかった。

2 今後の課題

- (1) 学級経営年間指導計画の実践とその充実及び内容の工夫・改善。
- (2) 「児童理解のための個人カルテ」の効果的な活用と内容の工夫。
- (3) 魅力のある学級づくりをするための創意工夫と実践。

《主な参考文献》

萩原繁夫・三浦健治共編	『小学校学級担任活動双書 1 ひとりひとりを生かす学級経営』	1990年
尾崎勝・西君子編著	『発達をとらえた児童理解とその指導3・4年〔改訂版〕』	1991年